

2021年度 地方創生推進交付金事業評価シート

<b>事業名</b>	ポストコロナを見据えた「持続可能な観光地域づくりモデル市町村」形成事業																		
<b>事業開始年度</b>	2021年度	事業終了(予定)年度	2023年度	担当課	まるごと三好観光戦略課														
<b>事業の目的</b>	<p>国内外でSDGs対応が加速、内閣府の総合戦略においても、SDGsを原動力とした地方創生が掲げられている。観光分野ではSDGsに対応した持続可能な観光の国際基準として「GSTC」が開発されており、2020年に観光庁がGSTCに準拠した、日本版持続可能な観光ガイドラインとして「JSTC-D」を策定された。</p> <p>現在、コロナウイルスの感染拡大が観光産業を低迷させている一方で、旅行者側の意識に影響を与え、持続可能な旅行を意向する傾向が見え始めている。</p> <p>このことから、持続可能な観光地として「安心・安全・綺麗・清潔」や「自然共生・環境志向」といった観光を打ち出すことが、受入地域にとって競争力を持ち、中長期的にコロナ危機からの観光再生を図る鍵となるため、モデルづくりの取り組みを進めるため、自治体広域連携(岩手県釜石市(代表)、北海道ニセコ町、北海道弟子屈町、長野県小布施町、京都府宮津市、熊本県小国町、鹿児島県与論町、徳島県三好市)による官民連携プラットフォームを形成するとともにSDGsにも対応した持続可能な観光の国際基準GSTC(※1/以下、GSTC)を活用した観光地域づくりを実践し、連携自治体において以下の状態目標を目指す。</p> <p>○世界標準での持続可能な観光地整備を図り、新型コロナウイルス終息後のインバウンド観光の回復時にいち早く優良な旅行者を呼び込み、交流人口拡大による地域経済の再生につなげる。(訪れてよし)</p> <p>○専門人材の育成とDMO等を中心とした管理体制によるデスティネーション・マネジメント(観光地管理)能力が高められ、自然環境や文化遺産の保全、感染症や災害危機管理等の多面的な課題に対応した観光地域づくりが展開されることで、地域住民の満足度が高まる。(住んでよし)</p>																		
<b>事業内容</b>	<p>広域連携(岩手県釜石市:代表、北海道ニセコ町、北海道弟子屈町、長野県小布施町、京都府宮津市、熊本県小国町、鹿児島県与論町、徳島県三好市)による日本「持続可能な観光」地域協議会に参画し、持続可能な観光の国際基準GSTCを活用した観光地域づくりを実践するとともに、マーケティング・リサーチの展開、世界農業遺産認定を生かした食の魅力創出やジオ(地球・大地)を活用した自然および自然と歴史文化関係性を魅せる仕組みづくり、各地域の特色や魅力を生かした着地型旅行商品の開発と事業推進主体の形成支援、新たな誘客コンテンツの開発などに取り組み、持続可能な観光地域プロモーションを行う。</p>																		
<b>事業費(単位:円)</b>		2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度	計												
※三好市分	計画額	30,824,000	83,986,000	20,407,000	-	-	135,217,000												
	実績額	29,067,000					29,067,000												
	交付金充当額	14,533,500					14,533,500												
<b>重要業績評価指標(KPI)</b> ※三好市分	KPI①	①本事業で開発した観光コンテンツの消費額(円)	単位	2021年度増加分(1年目)	2022年度増加分(2年目)	2023年度増加分(3年目)	2024年度増加分(4年目)	2025年度増加分(5年目)	KPIの増加分の累計										
			目標値	2,000,000	4,000,000	9,000,000	-	-	15,000,000										
			実績値	0					0										
		達成度	D					-											
	KPI②	②本事業を通じた宿泊観光客数(人泊)	単位	2021年度増加分(1年目)	2022年度増加分(2年目)	2023年度増加分(3年目)	2024年度増加分(4年目)	2025年度増加分(5年目)	KPIの増加分の累計										
			目標値	100	200	400	-	-	700										
			実績値	0					0										
		達成度	D					-											
	KPI③	③観光関連事業者(地域内)の満足度(%)	単位	2021年度増加分(1年目)	2022年度増加分(2年目)	2023年度増加分(3年目)	2024年度増加分(4年目)	2025年度増加分(5年目)	KPIの増加分の累計										
			目標値	60	70	80	-	-	210										
			実績値	43					43										
		達成度	C					-											
	KPI④		単位	2021年度増加分(1年目)	2022年度増加分(2年目)	2023年度増加分(3年目)	2024年度増加分(4年目)	2025年度増加分(5年目)	KPIの増加分の累計										
			目標値	-					0										
			実績値	-					0										
		達成度	-					-											
<p>数値目標及びKPIの達成度</p> <table border="1"> <tr> <td>達成割合(%)</td> <td>達成度</td> </tr> <tr> <td>100%以上</td> <td>A(目標を上回る)</td> </tr> <tr> <td>90%以上~100%未満</td> <td>B(概ね目標どおり)</td> </tr> <tr> <td>70%以上~90%未満</td> <td>C(目標をやや下回る)</td> </tr> <tr> <td>70%未満</td> <td>D(目標を大きく下回る)</td> </tr> </table>										達成割合(%)	達成度	100%以上	A(目標を上回る)	90%以上~100%未満	B(概ね目標どおり)	70%以上~90%未満	C(目標をやや下回る)	70%未満	D(目標を大きく下回る)
達成割合(%)	達成度																		
100%以上	A(目標を上回る)																		
90%以上~100%未満	B(概ね目標どおり)																		
70%以上~90%未満	C(目標をやや下回る)																		
70%未満	D(目標を大きく下回る)																		

<p><b>当該年度の成果と課題</b></p>	<p>①三好市観光推進会議設立及び運営 「第2次三好市観光基本計画」で示された各施策を着実に遂行していくため、官民の観光に携わる方々が観光振興の推進に向けた議論や検証、持続可能な観光の国際基準に対応した関連計画(実行プランなど)を整備する事を目的に「三好市観光推進会議(委員長:三好市長、委員16名)」を設立した。3回の会議及び庁内連携会議(2回)を開催し、JSTS-D指標を活かした持続可能な観光地経営の推進、コロナ禍での社会生活の変容や旅行者ニーズなど新たな観光産業の変化への対応を踏まえた観光基本計画実行プランを策定した。</p> <p>②持続可能な観光地域づくりの体制強化 「日本版持続可能な観光ガイドライン(以下JSTS-D)」に依拠した持続可能な観光地域づくりを推進する体制の構築及び強化を行うため、三好市観光協会内等にサステナビリティ・コーディネーターを設置するとともに、SDGsとジオパークの推進体制の構築を図るため、サステナブルツーリズム研修を実施した。</p> <p>③持続可能な観光指標モニタリング調査 持続可能な観光指標に基づき「JSTS-D」の全項目に関する三好市の現状把握を行うとともに、三好市観光推進会議においてアセスメント報告会を実施し三好市の現状、課題整理、目指す方向性の検討を行うとともに、短期・中長期での施策と目標、モニタリング指標の設定などを「観光基本計画実行プラン」に盛り込んだ。また、三好ジオパーク構想を推進するためサイトカルテ診断を行い、地域資源の価値評価(教育的、科学的、観光的)を専門家とともに実施し、地域資源の見える化を図った。</p> <p>④持続可能な観光地域プログラム開発 世界農業遺産認定を生かした食の魅力創出や各地域の特色や魅力を生かした着地型旅行商品の開発、新たな誘客コンテンツの開発などに取り組むため、三好市ガストロノミープロジェクトを立ち上げ、地元事業者とともに検討会及び試食会を重ね、新たな地元食材を生かしたメニュー開発(6品)を行うとともに、東京において三好市フェアを実施し食の情報発信を行った。 なお、吾橋展望台新設及び小歩危展望台新設については、新型コロナウイルスの影響により資材が高騰したため予定していた工事が入札不調となったことで、年度内での工事施工が出来なくなった。このことにより観光コンテンツ整備事業に遅延が生じたことで、観光客が減少。また、新型コロナウイルス感染症拡大に伴う政府による「まん延防止措置」「緊急事態宣言」が4月以降発令されたことで観光客受入及び誘客が難しい状況となった。コンテンツの造成は進めていたが、事業開始が全体的に遅れたことでKPI①、②が減少することとなった。</p> <p>⑤観光地域プロモーション 新型コロナウイルス感染症拡大などの影響により効果的な事業の実施が難しくなったため、市場調査及びプロモーションは実施しなかった。</p> <p>⑥全体共通プログラム(協議会)事業 JSTS-Dが準拠するGSTCの基準を理論と実践から深く理解することを目的に、GSTC公式トレーニングプログラム研修を開催するとともに、モデル市町村の人材ネットワーク構築事業として、サステナビリティ・コーディネーター合同研修(ニセコ)に参加した。</p>
<p><b>今後の取組</b></p>	<p>三好市では、通過型観光が主流であり、宿泊滞在型の観光が主流でないため、域内における滞在時間が短く観光消費額を低めている要因の一つとなっている。大歩危祖谷地区観光コンテンツ整備事業により展望台を整備することによって、展望台から見える景観を新たな観光資源として活用し、観光客等の誘致・集客を図り、滞在時間を延長につなげることで、KPI①本事業で開発したコンテンツの観光消費額、②本事業を通じた宿泊観光客数の向上に取り組む。 また、三好市観光推進会議の運営及び持続可能な観光地域づくりの体制強化、三好市ガストロノミープロジェクトの推進などを実施し、2021年度策定した三好市観光基本計画実行プランの進捗及び検証を行う。</p>

2021年度 地方創生推進交付金事業評価シート									
事業名	三好市全世代活躍コミュニティ創出プロジェクト事業								
事業開始年度	2020年度	事業終了(予定)年度	2022年度	担当課	地方創生推進課 生涯活躍のまちづくり推進室				
事業の目的	移住はしないものの、地域貢献活動を希望する人材の活動や、地域の日常生活に利便性の向上につながる活動を促進する「シゴトプラットフォーム(コミュニティ)」づくりを行い、同プラットフォームを通して、市内外の人材の多様な「つながり」を生み・育てるなかで、地域の産業やまちづくりの担い手(関係人口)へと移行を促し、さらに移住・定住へとつなげる。								
事業内容	<1.インキュベーションラボ(関係人口創出ラボ)創出事業> 廃校舎を活用し、インキュベーションラボ(関係人口創出ラボ)を整備。これまで本市との接点が少なかった都市圏を中心とした大学生や循環型サテライトオフィス企業、都市部において働きながらも地方での兼業・副業を希望する「ダブルワーク希望人材」、さらには地元高校生等が短・中期的に宿泊(滞在)するなか、魅力ある仕事を検討し、創出を図るコミュニティ(場)の形成を目指す。 <2.人生100年時代の住まい・働き方創出事業> 都市部の企業と連携し、同企業に所属する人材らがテレワークやワーケーションなど多様な形で利用する住宅、シェアオフィスを整備するとともに、移動から滞在までの生活支援や地元企業等との交流、地域課題解決型能力開発などの固有の研究プログラム等を確立することで、都市部人材の循環的な利用を実現し、産業を中心とした関係人口の獲得を目指す。 <3.まちなか滞在促進事業> まちなか滞在を促進する「食文化を題材としたアクティビティ開発」に向けた実証実験を実施。取組を進める過程では、ラボでの滞在者(大学生・社会人・企業)やお試し住宅の利用者に企画等に参画してもらうとともに、持続的かつ継続的な取組となるよう、実質的なサービス提供を行う地域プレイヤーによるコミュニティの創出を目指して展開していく。 <4.福祉の足プロジェクト事業> 都市圏からの地方へ移住に際し自立した移動手段を有しない個人等の支援、さらには地域課題(高齢で、自立した移動手段を持たないため、社会との接点が減少することで生ずるフレイル)への対策や移住後の暮らしを支えることを目的に、外出支援(移動支援を含む)サービスの構築を行う。 <5.ヘルスアップステイ事業> 新たに本市に関係する人材の健康度の向上を図り、滞在を支えるための健康増進を図るコミュニティを形成する。								
事業費(単位:円)		2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	計		
	計画額	31,500,000	72,396,000	19,050,000	-	-	122,946,000		
	実績額	49,088,135	76,165,069				125,253,204		
	交付金充当額	15,174,000	34,975,000				50,149,000		
重要業績評価指標(KPI)	KPI①	市内外の多世代人材を対象とした、多様な形で地域活動が可能となるコミュニティへの参加者数	単位	2020年度増加分(1年目)	2021年度増加分(2年目)	2022年度増加分(3年目)	2023年度増加分(4年目)	2024年度増加分(5年目)	KPIの増加分の累計
			目標値	30	60	150	-	-	240
			実績値	30	67				97
			達成度	A	A				
	KPI②	コミュニティの担い手として活動する人数	単位	2020年度増加分(1年目)	2021年度増加分(2年目)	2022年度増加分(3年目)	2023年度増加分(4年目)	2024年度増加分(5年目)	KPIの増加分の累計
			目標値	15	30	75	-	-	120
			実績値	16	45				61
			達成度	A	A				
	KPI③	東京圏・関西圏を中心としたUIJターナー者数	単位	2020年度(1年目)	2021年度(2年目)	2022年度(3年目)	2023年度(4年目)	2024年度(5年目)	KPIの累計
			目標値	210	225	250	-	-	685
			実績値	227	237				464
			達成度	A	A				
	KPI④	地域資源の活用や地域課題の解決を目的としたコミュニティ活動数	単位	2020年度増加分(1年目)	2021年度増加分(2年目)	2022年度増加分(3年目)	2023年度増加分(4年目)	2024年度増加分(5年目)	KPIの増加分の累計
			目標値	-	2	2	-	-	4
			実績値	-	2				2
			達成度	-	A				
数値目標及びKPIの達成度									
達成割合(%)		達成度							
100%以上		A(目標を上回る)							
90%以上～100%未満		B(概ね目標どおり)							
70%以上～90%未満		C(目標をやや下回る)							
70%未満		D(目標を大きく下回る)							
当該年度の成果と課題	[成果] 事業の実施基盤となる多様なコミュニティの創出、拠点づくりを図った。 <1.インキュベーションラボ(関係人口創出ラボ)創出事業> 昨年度、整備した「ウマバススクールコテージ」を拠点に、都市部人材がかかわるコンソーシアムを形成。再生可能エネルギーの最適利用・自律分散するシステム構築に取り組んだ。(2021年で計4回開催、都市部企業人材が継続して本市を訪問している。)開催ごとに参画企業も増加してきており、2022年度以降も継続発展的な取組が行われる。 さらに、東京圏の企業1社は、同拠点を通じ、2021年度から継続して同企業の人材が本市を研修の場として、多様な形で三好市に貢献する人材を輩出することを念頭に、研究プログラム構築に向けた実証実験を実施することとなった。2021年度では約2週間程度、関係者らが本市に滞在し地元企業や市職員を加えて研修を実施した。 <2.人生100年時代の住まい・働き方創出事業> リモートワークやテレワーク機能を有する小規模オフィスを付加した住宅(1戸)と、シェアオフィス1棟を整備した。あわせて地元企業との交流や関係づくりについての調査研究等を行った。 <3.まちなか滞在促進事業> ウマバススクールコテージ利用者等を対象に食のアクティビティの試行的な提供の実施等。 <4.福祉の足プロジェクト事業> 外出支援等を促す拠点の魅力あるコンテンツづくりを継続して行うとともに、事業の担い手確保等の取り組みを行った。 <5.ヘルスアップステイ事業> ウマバススクールコテージ利用者等を対象とした健康度向上を図るヘルスツーリズムの実現に向けたコンテンツ開発を実施。 [課題] 本事業の目標達成を図っていくには、都市部人材の地方滞在を長期化させる環境づくりとともに、地域住民とのつながり、交流を生む取り組みが求められており、より一層の各事業の深化とともに事業間連携が必要。								
	今後の取組	<1.インキュベーションラボ(関係人口創出ラボ)創出事業 現プロジェクトとは別に、都市部企業人材を誘致できる新たなプロジェクトの検討と立ち上げの実施等。 <2.人生100年時代の住まい・働き方創出事業> 施設運用による都市部人材の滞在促進の試行的実施等。 <3.まちなか滞在促進事業> 食のアクティビティの実装等。 <4.福祉の足プロジェクト事業> 自主的な運営手法や法規制への対応に関してノウハウや知見を有するコンサルタントを中心に、地元住民や団体を巻き込んだ事業主体を形成と独自のモデルの確立を図る実証やPR等を行う。 <5.ヘルスアップステイ事業> 健康度向上を図るヘルスツーリズムの実装等。							

2021年度 地方創生推進交付金事業評価シート

<b>事業名</b>		三好市アウトドアスポーツのまちづくり事業							
<b>事業開始年度</b>	2020年度	<b>事業終了(予定)年度</b>	2022年度	<b>担当課</b>	まると三好観光戦略課				
<b>事業の目的</b>	<p>本市では、観光をリーディング産業と位置付け、これまで訪日外国人(インバウンド)観光客の誘客をはじめとする観光政策に注力している。一方で、現状、河川環境を活かした恒常的な観光産業においては、祖谷のかずら橋の渡橋や、大歩危小歩危渓谷の遊覧のほか、本市固有の自然環境を活かした大歩危祖谷温泉郷の宿泊施設など、静のアクティビティが主流である一方、体験型などの動のアクティビティでは、個人を対象としたラフティング体験のみと、ライナップ不足を生じている。さらに四国の観光動態の特徴として、宿泊先は都市部に集中する傾向があり、本市は通過型観光が主流となり、観光消費額を低めている。</p> <p>これまで三好市では、本市固有の観光資源である吉野川を活用したウォータースポーツのまちづくりの構築を進めてきており、2017年ラフティング世界選手権、2018年ウェイクボード世界大会の開催により、世界規模で競技大会を開催できる環境を周知することとなり、有効活用できていなかった池田湖の水辺環境が、河川環境、立地、動線など、他地域との優位性を踏まえ、本市固有の観光拠点としての可能性を認識することとなった。今回の事業を通じ、池田湖を観光拠点化し、域外市場向け体験型アクティビティを確立、幅広いユーザーを取り込むことにより、交流人口を呼び込み、大歩危祖谷エリアに加えて市内周遊を促し、滞在時間の延長、観光消費額の増加や、交流・関係人口の拡大へとつなげ、さらには将来的な移住者の増加を目指す。</p>								
<b>事業内容</b>	<p>三好市は、「ウォータースポーツのまち」としての認知が高まりつつあり、この機運を背景に、①未来の人づくり、②交流・関係人口の拡大、③発信力のあるメディアの構築、④アウトドアスポーツツーリズムの拠点整備、等を柱として、本市固有の観光資源である池田湖を観光拠点化し、域外市場産業を確立させ、幅広いユーザーを取り込むことにより、観光消費額の増加や、交流拡大人口の拡大へとつなげ、さらには将来的な移住者増を目指す。</p> <p>①では、市内外の小中高校生を対象に、ラフティング、ウェイクボード競技者の育成チーム(ウォーターキッズクラブ)を設置、定期的な練習や体験会を実施する。さらに、ウォータースポーツ及び親水体験の機会としてウォーター・チャレンジを実施し、ライトユーザーも参加しやすい環境づくりに取り組む。</p> <p>②として、ウェイクボード中四国大会、ラフティング全日本大会、大歩危リバーフェスティバルなど、スポーツの特性を活かした目標達成に向かう達成浴の醸成をはかり、リピーターの育成に向け、レベルに合わせて参加できる大会、イベント等の事業を実施する。同時に、観光やエンターテインメントと組み合わせることで、参加者だけでなく同伴者や観戦者など来場者が楽しめる環境づくりを行う。あわせて大会参加に向けての練習機会を設け、滞在期間、観光客数、リピーターの増加を目指す。</p> <p>③では、観光拠点情報を発信するにあたり、本市独自のメディア(三好市ポータルメディア)を構築する。そこでは、情報の制作を一元的に管理し、SNS等を活用、戦略的に、積極的に、国内外へ情報を発信する。さらに発信効果を高めるため、情報発信システム(東京ブランチ)を構築し、その窓口をメディアの集中する東京に置く。三好市の情報を全国のマスメディアに発信、露出の機会を増やし、ライトユーザーの獲得を目指す。</p> <p>④では、誰でも手軽にウォータースポーツを体験できる環境づくりを行う。整備する項目としては、①②のソフト事業の実施を通じた課題の整理と分析を踏まえ、次のものについて整備を検討する。ライトユーザーを呼び込む大会やイベント開催の支援としてウォーター棧橋を設置、池田湖艇庫前階段の改修を行う。ラフティング体験や競技練習に向けて、スラロームラインを設置する。多くの人に安全に体験してもらうために貸し出す備品として、ライフジャケットやウェイクボード、ラフティングパドル、サップ等について整備する。さらに既存のサイクリングイベントなどアウトドアスポーツの総合的な窓口としての可能性について、他の観光産業と連携した滞在拠点としての活用に向けた検討を行う。</p>								
<b>事業費(単位:円)</b>		2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	計		
	計画額	46,592,000	38,946,000	42,507,000	-	-	128,045,000		
	実績額	38,356,782	34,598,475	-	-	-	72,955,257		
	交付金充当額	19,178,391	17,299,237	-	-	-	36,477,628		
<b>重要業績評価指標(KPI)</b>	KPI①	ウォーターキッズクラブおよびウォータースポーツチャレンジ(水の運動会)参加者数。	単位	2020年度増加分(1年目)	2021年度増加分(2年目)	2022年度増加分(3年目)	2023年度増加分(4年目)	2024年度増加分(5年目)	KPIの増加分の累計
			目標値	1790.000	676.00	1674.00	-	-	4140.00
			実績値	386.00	20.00	-	-	-	406.00
	達成度	D	D	-	-	-	-		
	KPI②	大会・イベント等の参加者数。	単位	2020年度増加分(1年目)	2021年度増加分(2年目)	2022年度増加分(3年目)	2023年度増加分(4年目)	2024年度増加分(5年目)	KPIの増加分の累計
			目標値	3,550	2,190	160	-	-	5,900
			実績値	539	1,796	-	-	-	2,335
	達成度	D	C	-	-	-	-		
	KPI③	三好市ポータルメディア総インプレッション数。	単位	2020年度増加分(1年目)	2021年度増加分(2年目)	2022年度増加分(3年目)	2023年度増加分(4年目)	2024年度増加分(5年目)	KPIの増加分の累計
			目標値	750,000	800,000	1,200,000	-	-	2,750,000
			実績値	10,906,207	140,418,287	-	-	-	151,324,494
	達成度	A	A	-	-	-	-		
	KPI④	一人当たりの旅行消費額	単位	2020年度(1年目)	2021年度(2年目)	2022年度(3年目)	2023年度(4年目)	2024年度(5年目)	KPIの累計
			目標値	29,810	30,140	30,470	-	-	90,420
			実績値	13,785	23,866	-	-	-	37,651
	達成度	D	C	-	-	-	-		
数値目標及びKPIの達成度									
達成割合(%)		達成度							
100%以上		A(目標を上回る)							
90%以上~100%未満		B(概ね目標どおり)							
70%以上~90%未満		C(目標をやや下回る)							
70%未満		D(目標を大きく下回る)							

<p><b>当該年度の 成果と課題</b></p>	<p>①未来の人づくり          新型コロナウイルス感染拡大の状況を受け、秋以降の実施となったが、吉野川ブランド育成業務として「ラフティングチームトラクト」の体験育成練習会、「ウォーターキッズイブニング」の運営・育成として、体験育成練習会を実施した。次に開催が秋冬の実施となり縮小開催となったが「ウォータースポーツチャレンジ」として「水の大運動会」を実施した。継続的に実施することでライトユーザーの拡大につなげているが、参加者数は減少しており、実施時期や、実施方法について検討する必要がある。</p> <p>②交流・関係人口の拡大          新型コロナウイルス感染拡大の状況を受け、ウェイクボード中四国大会、その他の競技大会（ラフティング全日本大会、大歩危リバーフェスティバル）、エンターテインメントコンテンツイベント、についても縮小開催を余儀なくされ、参加者は減少した。今年度初開催となった井川スノーフェスの検証を踏まえ、競技大会や関連イベントの実施方法について検討したい。</p> <p>③発信力のあるメディアの構築          本年度2年目となる、三好市発信型ポータルメディア構築及び発信業務、東京ランチまるごと三好発信業務について実施した。三好市発信型ポータルメディア構築発信業務では、旬の観光情報としてインバウンド向け英文を含む公開記事を365件、YouTube動画の作成、その運用体制の構築と人材育成に向けて編集制作チームの定例会議、報告会、外部講師を招いたSEO対策研修会、SNS研修会を実施、Twitterを活用したキャンペーン、SNS広告、ディスプレイ広告、YouTubeチャンネルによる動画配信を実施した。ポータル本体のページビュー、外部提携メディアで紹介された記事のページビュー、SNS獲得インプレッション、YouTube再生回数のオーガニック流入では67万インプレッションを獲得、広告での獲得インプレッションは1億5千万を突破、総インプレッション数151,324,494を獲得した。今後は、オーガニック閲覧数として120%達成目標として80万インプレッション獲得を目指す。</p> <p>東京ランチまるごと三好発信業務では、「ウマバスクールコテージ開設」「オンライン移住相談会実施」等12件のプレスリリースを実施、多くのメディアで紹介され、ポータルメディアの外部配信先からは他のウェブ媒体への転載が発生した。メディアプロモーションとしてSPREAD（スポーツ系WEB媒体）、Kiitosマガジン等と連携企画を実施、公式WEB、インスタグラム・ストーリーズへの掲載につながった。また、メディア担当からの助言として、オンラインセミナーを実施した。アウトドアスポーツの観光資源化について、三好のアウトドアコンテンツのフォトブックを作成、関係各社へ案内セールスを実施した。IKAWA SNOW FES開催時には元オリンピック選手の平沢岳氏よりアウトドアスポーツ全般に関する助言を得た。まるごと三好プロデュースワークとして、食のアンバサダー大桃美代子氏を招き、三好の食に関連した地域資源を視察、事業者と面会、助言をいただき、交流することが出来た。同氏は、自らのSNSを通じ、三好の魅力について発信いただいた。</p> <p>④アウトドアスポーツツーリズムの拠点整備          今年度未実施。</p>
<p><b>今後の取組</b></p>	<p>新型コロナウイルス感染拡大の状況は、未だ収束が見込めない状況にあるが、イベント等の開催については、国の動向に合わせ、感染拡大防止に努め、実施を検討する。</p> <p>事業の最終年度となる本年度は、3年間の重要業績評価指標の達成を目指すとともに、次年度以降の展開を見据えた事業の展開を行う。単独費として実施している事業の検証結果も踏まえ、認定法人の自走を促すとともに、さらなる支援の継続についても検討する。</p>

2021年度 地方創生拠点整備交付金事業評価シート

<b>事業名</b>	地方への人材循環促進住宅等整備事業																				
<b>事業開始年度</b>	2021年度	事業終了 (予定) 年度	2025年度	担当課	地方創生推進課 生涯活躍のまちづくり推進室																
<b>事業の目的</b>	都市部企業の所属人材らの滞在施設として、さらには将来的な移住定住の足掛かりとなる拠点を整備する。利用者らが施設の利用期間中に地元企業をはじめとする多世代市民との交流や関係性の構築を図り、移住をしないものの地方貢献を希望する人材の確保や将来の移住に向けての基盤づくりを行う。																				
<b>事業内容</b>	<p>リモートワークやテレワーク機能・小規模オフィスを付加した職住近接型の住宅を8戸整備する。 本施設は、多世代の都市部企業の所属人材等を対象とし、単身用を4戸、家族向け複数人用を4戸の計8世帯が同時に使用できる住宅であり、短期滞在から長期滞在まで受け入れる。</p> <p>同事業にあわせ実施するソフト事業では、住宅で滞在期間中、コーディネーターが地元企業との交流を通じた副業や新たな事業アイデアの創出機会の提供のほか地方課題解決型能力開発などの研修プログラム等を提供し地元企業との交流や地域課題解決型の研修プログラムを提供し、利用者の資質向上につなげるほか、生活支援(相談・案内)などを行う。 これらソフト・ハード事業を一体的に提供することで、都市部企業の継続的な地方循環を図り、利用者を関係人口化する効果的な取り組みとする。</p> <p>・利用者となる都市部企業の所属人材(ワーカー及びその家族等)にとっては、職住近接となることで生ずる時間の有効活用や、家族との時間の増加や自分自身にとっての有効な時間の活用など生活の質の向上に貢献。あわせて地方課題解決型能力開発などの研修プログラムを提供し、自らの資質向上に役立てもらう。</p> <p>・都市部企業にとっては、より柔軟な働き方を提案することで、従業員のQOLの向上につなげ、生産性の向上に役立ててもらい、あわせて地方課題解決型能力開発などの研修プログラムを提供し所属人材の資質を向上させ、そこで得た知見等を本業に役立ててもらい、地方で働くことの有用性を共感し都市部企業等との良好な関係づくりにつなげる。さらに地方でのテレワークという業務の一環としての新しい働き方に対する支援を企業側が行い、結果として地域経済が活性化していくなど、地方と企業との関わり方の形を構築することで、企業ブランドの向上に役立ててもらい。</p> <p>・三好市においては、利用者が循環的かつ計画的に滞在することで、準市民的な位置づけで、観光施設の利用や商業店舗などで地域経済内における消費拡大につなげるとともに、市内外の人材の多様な「つながり」を生むなか、地域の担い手(関係人口)の獲得につなげる。</p>																				
<b>事業費 (単位:円)</b>		2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度	計														
	計画額	107,370,000	-	-	-	-	107,370,000														
	実績額	123,908,663	-	-	-	-	123,908,663														
	交付金充当額	51,820,000	-	-	-	-	51,820,000														
<b>重要業績 評価指標 (KPI)</b>	KPI①	多様な形で地域の担い手として活動する人数	目標値	単位	2021年度増加分 (1年目)	2022年度増加分 (2年目)	2023年度増加分 (3年目)	2024年度増加分 (4年目)	2025年度増加分 (5年目)	KPIの増加分の 累計											
			実績値	人	0	25	25	35	40	125											
			達成度		0	-	-	-	-	0											
	KPI②	地域資源の活用や地域課題の解決を目的としたコミュニティ活動数	目標値	単位	2021年度増加分 (1年目)	2022年度増加分 (2年目)	2023年度増加分 (3年目)	2024年度増加分 (4年目)	2025年度増加分 (5年目)	KPIの増加分の 累計											
			実績値	件	0	2	3	4	5	14											
			達成度		0	-	-	-	-	0											
	KPI③	東京圏・関西圏を中心としたUIJ ターン者数	目標値	単位	2021年度増加分 (1年目)	2022年度増加分 (2年目)	2023年度増加分 (3年目)	2024年度増加分 (4年目)	2025年度増加分 (5年目)	KPIの増加分の 累計											
			実績値	人	225	25	25	30	30	335											
			達成度		237	-	-	-	-	237											
	KPI④	—	目標値	単位	2021年度増加分 (1年目)	2022年度増加分 (2年目)	2023年度増加分 (3年目)	2024年度増加分 (4年目)	2025年度増加分 (5年目)	KPIの増加分の 累計											
			実績値		-	-	-	-	-	0											
			達成度		-	-	-	-	-	0											
	<p>数値目標及びKPIの達成度</p> <table border="1"> <tr> <td>達成割合(%)</td> <td>達成度</td> </tr> <tr> <td>100%以上</td> <td>A(目標を上回る)</td> </tr> <tr> <td>90%以上~100%未満</td> <td>B(概ね目標どおり)</td> </tr> <tr> <td>70%以上~90%未満</td> <td>C(目標をやや下回る)</td> </tr> <tr> <td>70%未満</td> <td>D(目標を大きく下回る)</td> </tr> </table>											達成割合(%)	達成度	100%以上	A(目標を上回る)	90%以上~100%未満	B(概ね目標どおり)	70%以上~90%未満	C(目標をやや下回る)	70%未満	D(目標を大きく下回る)
	達成割合(%)	達成度																			
	100%以上	A(目標を上回る)																			
	90%以上~100%未満	B(概ね目標どおり)																			
70%以上~90%未満	C(目標をやや下回る)																				
70%未満	D(目標を大きく下回る)																				
<b>当該年度の 成果と課題</b>	<p>[成果] リモートワークやテレワーク機能を有する小規模オフィスを付加した住宅(8戸)を整備した。</p> <p>[課題] 施設利用について、各企業へヒアリング等した結果、施設の利用促進にあたっては、施設の管理運営能力があるだけでなく、都市部企業・人材にとっての地方滞在のメリットの可視化や関係性構築のノウハウが求められている。</p>																				
<b>今後の取組</b>	都市部企業・人材を地方へ循環させる実績やノウハウ等を有する施設管理者の選定、施設運営。																				